

区民の区政 8区の魅力

知ってほしい!

市内各区では、区民と区役所が手を取り合い特色あるまちづくりに取り組んでいます。さまざまな取り組みの中から今回は各区1つずつ紹介します。

図総務課(☎504-2112、☎504-2069)、区担当課は下表

区担当課	電話	ファクス	区担当課	電話	ファクス
中区地域起こし推進課	504-2820	541-3835	安佐南区地域起こし推進課	831-4926	877-2299
東区地域支えあい課	568-7735	568-7790	安佐北区地域起こし推進課	819-3904	815-3906
南区地域整備課	250-8963	250-8967	安芸区地域起こし推進課	821-4904	822-8069
西区地域起こし推進課	532-0927	232-9783	佐伯区地域起こし推進課	943-9705	943-9718

佐伯区 民泊の受け入れで、地域住民の生きがいづくり

農山村生活体験の民泊を受け入れ、中山間地域の活性化に取り組んでいます。

活動主体：湯来町農山村生活体験推進協議会

修学旅行生らをおもてなし

湯来町では、一般家庭に中学校や高校の修学旅行生らが3～5人ずつ宿泊し、畑作業などの農村体験をする民泊の受け入れを行っています。都会暮らしの生徒らに田舎体験を提供できると共に、受け入れる地元住民の活力にもつながっています。

とびきりの田舎体験を

これまで3組の生徒らを受け入れてきた坪井京子さん(72・右上写真)のお宅では、庭の木からユズを収穫し、ユズみそやユズジュースと一緒に足踏みをして餅をつく「だいがら」もワクワクする初体験



作ったり、タマネギの苗を植えたり、湯の山温泉に行ったりしました。「みんな「じいちゃん、ばあちゃん」と呼んでくれてね。孫のようです。楽しい時間はあっという間で、1泊2日では短過ぎるくらい。次は満天の星空や、季節が合えばホテルを見せてあげたい。川遊びもいいかな」と坪井さん。



今年度は残念ながらコロナ禍で実施できませんでしたが、都会などから来る子どもたちに、自然いっぱいの湯来で、田舎ならではの体験をしてみたらどうと各家庭が工夫をこらしています。

西区 西広島駅周辺を整備し、行き交う人々の交流拠点に

広島第2の交通拠点を目指し、西広島駅周辺のにぎわいづくり、交流の場づくりを行っています。

活動主体：西広島駅周辺にぎわいづくり委員会、西広島駅周辺花いっぱい実行委員会

将来を見据えて

西区己斐の玄関口には、JR西広島駅、広電西広島駅、バス各社の己斐バス停が集約しています。「ここに将来はアストララインの駅もできるんですよ。それに併せて南北自由通路の整備も必要になってきます」。そう話すのは、21世紀の己斐を創る会会長の川崎芳昭さん(66・下写真)。中長期的な視点でのまちづくりに取り組む一方、現在の西広島駅周辺のにぎわいづくりも着実に進めています。



行政はもちろん、民間企業との連携も模索しながら、地域一体となって西広島駅周辺を今よりもっと利用しやすいまちにしていきたいですね

にぎやかで明るいまちへ



昨年、広電西広島(己斐)駅隣の「コイブレ」で、地域・企業・大学生が連携してイベントを開催。新型コロナウイルス感染症対策を徹底した中で、消防音楽隊の演奏や地域活動グループの発表、フラワーアレンジメントのワークショップなどが盛況でした。

10年続いている「花いっぱい事業」は、各商店や町内会が季節の花を育て、通りを歩く人の目を楽しませてくれています。他にも、宮島街道沿いの空き店舗のシャッターをペイントするなど、さまざまな角度からにぎわいづくりを行っています。

安佐南区 心地よい音人が人をつなぐ魅力的なまちづくり

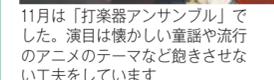
区民に親しまれ身近に感じられる区役所づくりのため「小さな音楽会」を定期的に開催しています。

活動主体：広島文化学園大学芸学部音楽学科

地域住民が心待ちにする生演奏

毎年4月～11月の月1回、文化学園大学と区役所が連携して開催している「小さな音楽会」は、10年も続く人気事業です。今年度はコロナ禍のため2回の開催となりました。

11月のこの日、開演に向けて、学生たちがリハーサルを行っている中、続々と観客が集まってきました。「いつも楽しみに来ているの」「私は今日が初めて。ご近所さんに勧められて」と、地域の皆さん。感染症対策で間隔を空けた席はすぐに満席になりました。



11月は「打楽器アンサンブル」でした。演目は懐かしい童謡や流行のアニメのテーマなど飽きさせない工夫をしています

「いつも楽しみに来ているの」「私は今日が初めて。ご近所さんに勧められて」と、地域の皆さん。感染症対策で間隔を空けた席はすぐに満席になりました。

地域貢献だけでない教育的効果

演奏する学生たちは「舞台がないから観客の皆さんと一体になれる感じ。表情がよく見えて、喜んでもらえているのが実感できます」とうれしそうに話します。演奏後に「これは何という楽器?」と聞かれることも。「住民の皆さんとの交流が学生たちのモチベーションアップにもつながります。音楽家は演奏を聞いてもらってこそ、ですからね!」と高橋千絵准教授(45・右上写真)は話します。



中区 安心して「まちなか」を楽しんでもらうための防災対策

市中心部の各商店街や大型店舗などでプロジェクトチームを組織し、「まちなか」に特化した防災活動に取り組んでいます。

活動主体：まちなかまちづくり連絡協議会、まちなか防災プロジェクトチーム

商店街などで独自に防災に取り組む

買い物客や観光客などたくさんの方が訪れる市中心部繁華街(まちなか)。「災害はいつ起こるか分かりません。いざというときにお客様を守るのは私たちの使命だと思っています」。そう話すのは若狭利康さん(64・右下写真)、プロジェクトチームのリーダーです。

平成30年2月には、大地震などの災害時に注意が必要な建物やAEDの設置場所などを分かりやすくまとめた「広島市まちなか防災マップ」を作成しました。



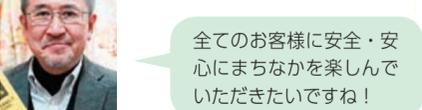
折りたたむとB6サイズになるコンパクトな防災マップ。災害への備えを記載した「まちなか防災対応マニュアル」との両面仕様です

「この防災マップは、実際に私たちと防災士さん、大学の先生と学生さんたちとで全域を歩いて、危険箇所などを確認しながら、1年がかりで作ったんですよ」と当時の苦労を振り返ります。

安全・安心に楽しんでもらうために

現在はコロナ禍で減少しているものの、年々増加している外国人観光客にも着目。万一の災害発生時は、各商店街のアーケード放送やプラカードを使ってスムーズに外国語による避難誘導ができるよう、準備を進めています。

オリンピックの開催も見据え、取り組みにもますます力が入ります。



全てのお客様に安全・安心にまちなかを楽しんでいただきたいですね!

南区 多くの人を訪れる観光地へと、黄金山を再整備

地元の社会福祉協議会などが連携した協議会と行政が一体になって、黄金山山頂エリアの活性化のための再整備に取り組んでいます。

活動主体：黄金山山頂エリア活性化推進協議会

360°パノラマ 近場の絶景スポット

山頂のロータリー広場から坂道を上ると、思わず「わあーっ」と声が出てしまう展望デッキからの眺め。昨年3月に一般開放された北展望エリアからは市街地や瀬戸内海をぐるりと見渡せる景色が広がります。「でもね、まだやっと始まったばかりなんですよ」と話すのは、会長の桑野富貴さん(右写真)。「今年度行ったせん定・伐採イベントをこれからも継続し、



北西方向には中心市街地が広がる。週に何度かウォーキングに訪れる地元の人、他県の友人から「こんないい場所が近所にあるなんて、うらやましい!」と言われたそう ※午後11時から午前5時までは車両進入禁止

さらに素晴らしい眺望にしていきたいですね。将来的にはバスの乗り入れもできるようにして、多くの方が気軽に訪れる場所にしたいです」と続けます。10年、20年先をイメージしながら、これからも着実に整備を進めていきます。

夕日や夜景も絶景です。ぜひ、一度見に来てください!



安佐北区 地域を盛り上げていく次世代を育てる

地域行事のお祭りなどを通して、中高生の地元への愛着心を育む取り組みを行っています。

活動主体：高陽まつり実行委員会、高陽まちづくり塾

支え合う関係

高陽地区では毎年7月に、地元の連合町内会を中心に「高陽絆まつり」を開催しています。「これはね、「高陽まちづくり塾」の生徒さんらが描いたんよ」と昨年度のポスターを実行委員長梅田千秋さん(82・右下写真)が見せてくれました。

高陽まちづくり塾とは、高陽地区の中高生が地域住民と一緒に、地元の歴史や特徴を学び、情報発信している活動団体です。昨年度は高陽の農産物を使ったご当地パンをパン職人と一緒に考案し、高陽絆まつりで販売しました。



カボチャのカレーパンとトウモロコシのパン、どちらも完売しました

まちづくり塾の活動を絆まつりで発表したり、絆まつりの準備をまちづくり塾の生徒らが手伝ったり、二つの事業は互いに支え合って開催しています。

自分の暮らすまちを好きになって

「絆まつりとまちづくり塾が目指すものは同じ」と梅田さん。それは高齢化や過疎化が進んでいく高陽で、地元が好きの人を増やすこと。「地域へ愛着を持つ若者が確実に育っていることを頼もしく感じる」と梅田さんはほほ笑みます。



まちづくり塾に参加したことのある子が高校生や大学生になって、OB・OGとして手伝いに来てくれる、これがうれしいんよ

東区 全ての住民が、「共に」「活き活き」「生きる」まちに

「地域共生社会」の実現を目指し、地域団体と区役所が連携して取り組んでいます。

活動主体：戸坂ともいきネット

住み慣れたまちで安心して暮らす

平成30年から他区に先駆けて地域支えあい課を設置した東区。8人の地区担当保健師を配置し、高齢者、子ども、障害者など全ての人々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでいます。地域団体と区役所、民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所などの8団体が連携した「戸坂ともいきネット」もその一つです。

見守り、支え合う

定期的に「見守り・声掛けあえるまちづくり」に向けた協議を重ねる同団体では、昨年度、坂道の多い戸坂地域で、買い物などの日常生活に不便を感じている人のために、冊子「戸坂お役立ち情報」を作成しました。地元の配達サービスがある店舗や出張

サービスがある美容院・理容院などを1軒1軒回り、サービス内容を取りまとめたものです。

「冊子を介して、支援を必要とする人がどこにおられるのかを民生委員など地域で把握し、支え合う体制づくりにつなげたい」と戸坂連合社会福祉協議会会長の秋本昇さん(74・下写真)は話します。



「戸坂に住んで良かった!」と言われる、住み心地の良い、まちづくりをみんなで目指しています



安芸区 ハイキングコースの整備を進め、快適な山歩きを

身近な山々を多くの登山者に利用してもらうため、ハイキングコースの整備に取り組んでいます。

活動主体：あきく魅力探見隊(事務局：安芸区地域起こし推進課)

月に1回の定期的な整備

自然豊かな安芸地区の山々で快適に山歩きができるよう、よく利用される登山道の、倒木処理や草刈りなどの作業を行う「あきく魅力探見隊」。月に1回、定期的な整備を行い、詳しい作業の様子や美しい眺望写真を交えた活動記録、登山用の地図をインターネットで情報発信し、山の魅力を伝えています。昨年、結成20周年を迎えました。

昨年12月5日には、矢野地区と海田町・熊野町にまたがる金ヶ燈籠山で作業を行いました。「体に優しい山歩きを始めるにはいかがでしょうか。山を歩くときに必要な地



隊員を随時募集しています。詳しくは下記か事務局(電話、ファクスは4分50秒)へ市HP ページ番号でさがす 6428

図も用意しています。ぜひ活用してください」と代表の岩立義勝さん(77・下写真)は話します。

登山道を維持するためには、定期的な整備が必要です。里山の自然に囲まれて心地よい汗を流すボランティア活動と一緒にしませんか



あきく魅力探見隊(赤穂峰(金ヶ燈籠山)からの眺望)